

## 歯科矯正用アンカースクリューを用いたインプラント補綴スペースの確保についての臨床的検討

一般社団法人東京形成歯科研究会

田 昌守

目的: 近年,下顎臼歯欠損部に対するインプラント補綴処置は臨床的にエビデンスのある治療として認められ,いくつかの補綴処置の選択肢の 1 つであり,患者にとって有意義で優先順位の高い治療法として確立されている.しかしながら,欠損部位にインプラントは埋入できるものの,対合歯の上顎臼歯部の挺出によりその補綴スペースの確保ができずに,やむを得ず対合歯の削合や場合によっては抜髄に至るケースも多々有り,患者にとって大きな不利益を生じている.そこで,歯科矯正用アンカースクリューを用いて上顎臼歯部を圧下してスペースを確保することにより,削合等のダメージを与えることなく補綴治療が可能となり,患者にとっても非常に有益な治療法であることが判明したので報告する.

症例の概要: 下顎臼歯部欠損で上顎臼歯部の挺出がみられ,補綴スペースが十分でない患者に対し,上顎臼歯部周囲に歯科矯正用アンカースクリューを埋入し,パワーチェーン等の矯正用エラスティックを用いて圧下し,補綴スペースの確保した後にインプラント補綴処置をおこなった.その後 2 年から 6 年の経過を観察した.

経過: インプラント補綴処置および対合の上顎臼歯部に異常はみられず,インプラント及び上顎臼歯に歯槽骨の吸収や歯周ポケットの増大等の臨床所見は見られない.また,ある程度理想的な咬合状態の再構成が可能のため,早期接触や干渉等もみられず,顎関節等に異常も見られない.

考察および結論: 下顎臼歯部欠損で上顎臼歯部に挺出が見られるケースにおいて,歯科矯正用アンカースクリューを用いて上顎臼歯部を圧下し,下顎臼歯部の補綴スペースを確保した後にインプラント補綴処置をした場合には,上顎臼歯部の削合や抜髄処置等のダメージもなくある程度理想的な咬合状態の再構築が可能となり,患者にとって非常に有益な処置であることが示唆された.今後もより長期的な予後観察は必要であると考えられる.